

能登半島地震 輪島支援 特別上映

# 幻の光

1995年ヴェネチア国際映画祭 金のオゼッラ賞受賞 (撮影に対して)

能登の雄大な自然を背景に、ひとりの女性の「喪失と再生」を描いた是枝裕和監督の長編映画デビュー作。  
1995年の公開から29年の歳月を経て、デジタルリマスターにて今新たによみがえる。

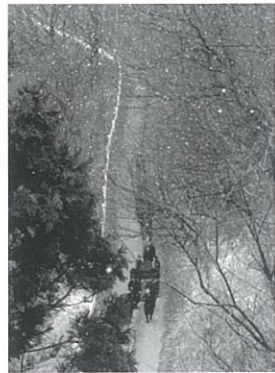
江角マキコ 浅野忠信 柏山剛毅 渡辺奈臣 吉野紗香 木内みどり 大杉漣 桜むつ子 赤井英和 市田ひろみ 寺田農 内藤剛志 柄本明

企画/プロデューサー:合津直枝 原作:宮本輝(『幻の光』新潮文庫) 監督:是枝裕和 脚本:荻田芳久 音楽:陳明章 撮影:中堀正夫 照明:丸山文雄 録音:横溝正俊  
美術:部谷京子 装飾:赤塚佳人 衣裳:北村道子 編集:大島ともよ 音響効果:佐々木英世 助監督:高橋巖 日比野朗 森井輝 制作部:桜井崇 小林千賀子 石田基紀  
広告美術:葛西薫 広告写真:藤井保 製作:重延浩 協力:石川県輪島市

製作/配給:テレビマンユニオン 配給協力:プレイタイム 1995年/日本/110分/カラー/1.85:1 ©1995 TV MAN UNION maborosi.online



『幻の光』(令和6年能登半島地震 輪島支援 特別上映)の収益から諸経費を除いた全額が輪島市に届けられます。



祖母が、そして夫が突然死へと旅立った。愛する人を次々と失った記憶と引きとめることができなかった悔恨を胸に秘め、ゆみ子は奥能登に嫁ぎ、新しい家族に囲まれて平穏な日々を送るが…。

「一日の、あるいは季節の中で移りゆく“光と影”を描いた歴史に残る映画だ。」(イル・ジョルノ紙)

芥川賞作家・宮本輝の同名小説を原作とし、是枝裕和監督の長編映画デビュー作となった映画『幻の光』(1995)。石川県輪島市を舞台に「喪失と再生」というテーマを、陰影深い映像に昇華させ、ヴェネチア国際映画祭で金のオゼッラ賞(撮影に対して)を受賞。国内でも連日満席となる話題作となった。

だが、公開から29年後の2024年元日。能登半島地震で輪島市は甚大な被害を受ける。「当時、新人たちの映画づくりは暗礁に乗り上げていた。輪島市の協力がなければ、映画は完成していなかった」と振り返るのは合津直枝プロデューサー。「今こそ映画を通して輪島市に恩返しを」と、デジタルリマスター版『幻の光』のリバイバル上映を企画した。『幻の光』には輪島の風景、生活、美しさのこざれている。今回の特別上映は、その収益から諸経費を除いた全額を輪島市に届け、1日も早い復旧復興を祈念するものである。

四十六年前『幻の光』という小説を書くために吹雪の能登の海に沿った道を歩いた。そこからたくさんの心が生まれてきたのだ。小説家 宮本輝

自分の映画監督のキャリアは輪島から始まりました。今回の上映が、映画の中に描かれた朝市や海岸線の風景や、そこに暮らす人々の生活を取り戻す一助になればと強く思います。監督 是枝裕和

映画『幻の光』には元気な、能登、輪島があります。映画は文化です。私達はもっともっと映画を観なければいけません。映画『幻の光』を幻でなく現実のものにするのは僕たちです。僕たちの力で『幻の光』を生き返らせましょう。そしてそれが復興の一助になれば。俳優 柄本明

『幻の光』撮影時は学生で3rd助監督でした。初めて経験する撮影現場で、人生で初めて輪島を訪れました。圧倒的な景色、いまだに目に焼き付いています。極寒の撮影現場に差し入れていただいたワカメスープ。本当に心も身体も温まりました。THE SEVEN CCO/プロデューサー 森井輝

8月2日(金)より  
Bunkamuraル・シネマ 渋谷宮下にて限定上映

渋谷東映プラザ7&9F  
Bunkamuraル・シネマ  
渋谷宮下  
050(6875)5280 www.bunkamura.co.jp



【火曜日ル・シネマサービスデー】【木曜日MY Bunkamuraオンラインサービスデー】【平日午前】1,200円